

## 令和6年11月29日（金）令和6年度第5回射水市内川未来戦略会議 議事要旨

### <開催概要>

- 1 開催日時 令和6年11月29日（金）10：00～11：30
- 2 開催場所 射水市新湊消防署3階講堂
- 3 出席者（五十音順）

青井 茂	株式会社アトム代表取締役
明石 あおい	株式会社ワールドリー・デザイン代表取締役
加治 幸大	株式会社imizutto代表取締役
木村 広	株式会社新湊観光船取締役専務
高木 新平	株式会社ニューピース代表取締役CEO
中川 めぐみ	株式会社ウオー代表取締役
永谷 亜矢子	立教大学経営学部客員教授
福田 和則	株式会社エンジョイワークス代表取締役
牧田 和樹	一般社団法人射水市観光協会会長

### <議事次第>

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 第4回会議ふりかえり
  - (2) 基調報告
  - (3) 意見交換
- 3 閉会

#### 1 開会（市長挨拶）

・おはようございます。議員の皆さまには、大変ご多用の中でご出席いただき、お礼を申し上げます。

・先日、富山県の成長戦略カンファレンスが内川エリアで開催された。本日の出席者の中にも参加した方がいると思うが、参加した方、公開会議に出席した方に敬意を評したい。成長戦略カンファレンスの中では、地域の未来はどう描くのかということをテーマに、地域の資源を生かしながら地域の経済の好循環をどのように生み出していくのか等について活発に意見や発言があったと聞いている。このような様々な発言やこのような機会が、内川エリアや、富山県全体の成長に繋がり、色んな化学反応を起こすきっかけになることを期待したい。

・前回の第4回の会議では公務の都合で私は欠席であったが、水資源や水辺を活用した観光について野口委員、中川委員がプレゼンテーションを行い、活発に議論いただいたと聞いている。内川に住み、生業を営んでいる委員の皆さん、さらには、中川委員からは漁師町内川というテーマで発表していただいた。

・これまで議論をしてきた内容に、新たな視点が加わることで、これから目指していくべき将来像の解像度が徐々に高まってきたと思っている。

・本日のテーマは、移住や店舗開業における課題や可能性。ご承知かと思うが、内川周辺ではここ12年で35を超える店舗が新たに新店を出店をしていただいている。こうした現状

の中で、実際に移住した方やお店を開かれた方々が実際感じている課題や可能性をしっかりと受け止めながら未来のビジョンに反映させていくということが非常に大事だと感じている。

・そのような状況の中で、本日は明石委員と加治委員からプレゼンテーションをしていただき。大変期待しながらお聞きしたい。また、委員の皆様にもぜひ色んなご意見を頂戴いただけたら思っているので、よろしくお願いします。

## 2 議事

### (1) 第4回会議ふりかえり

#### 【高木委員】

・今日はオンラインで失礼します。先ほど市長も触れてくださったので、簡単に話します。

・第4回では、水産資源を活用した観光と、漁師町、漁業があることによる船や空気感が魅力にも関わらず、景観の維持していないという話があった。例えば、船が大型化して係留地が内川の外に行っていることや、その景観を残してても、活用できてないことなど。また、しろえび観光船を新しい挑戦としてやっているが、ある意味サステナブルな状態になってない。加えて、漁港はあるが、地元民が地元の魚を買えない、外から来た人も写真を撮るだけで、海業の町だということを体験できてないなどの現状がある。

・今の内川では魚、漁業を感じられてないという中できちんと見せるようにすることや、かつ地元民や観光客も楽しめるような仕掛けができないかを考えていきたい。なかなかやろうと思ってもできてない環境整備としての屋台や、シェアキッチン制限を緩めること、または船を活用するなどが議論としてでてるかと思う。または、朝市みたいなものや、漁業が内川と絡み合うことで、内川での体験を、地元の人も当然楽しめるものとしてやっていくべき。

・地元の見線としては、内川はこのままでいいという見線はありつつも、何もなければ維持はできないと思っている。内川の漁業を絡めて、内川が持っている魅力を掛け合わせていくこと、加えて地元の人たちが楽しめるものを巻き込んでいくことで、ちゃんと内川らしい形での生活、観光のバランスというもの作っていけるのではという議論をした。

・先ほど市長からも話があったように、先週「しあわせる。富山」という県の成長戦略カンファレンスが内川で行われた。最初のセッションが射水市主催だったため、私を含め、牧田座長、明石委員、永谷委員と登壇させていただいた。結構良い議論できたと思うので、ぜひこのセッションの動画を参照してください。ここでは延長戦の議論から、発展的に公開会議のような感じで実施した。

・空き家率や、人口分布では85歳女性が一番多いというスーパー逆三角形の人口構成になっているというデータがあり、普通にやるだけだと維持できないというのを確認した上で、どうやってやっていくのかなどを議論した。ただ、中の住民の方々が怖くなってしまうと魅力的な地域にならない。

・景観条例というと、どうしても見栄えだけ良くするため、住む人にとっては負荷が大きく、これまでに2回ほど実施を考えたがなかなか通じなかったことを話した上で、大事なのは景観という建物より、その営みも含めた情景を守ることなのではな

いかという議論で盛り上がっていった。ハードというよりは、いわゆる景観条例という情景を守るような「情景条例」のようなものを作っていないかという議論をしていた。

- ・実はこのカンファレンスの翌日に、明石あおいさんがモデレーターされて、五十嵐さん、内川で「世楽美（セラビ）」というレストランをやられてる齊藤さんと、さとゆめという地域おこし事業をされている嶋田さんとのセッションが行われた。そのセッションでは俯瞰した議論というよりは1個1個のお店の背景にあるストーリーを話したが、とても良かったので、ぜひ皆さん動画を参照ください。

- ・そのセッションでは、どうやってこの内川または新湊の情景を残しながら紡いでいくか、形を変えながらも紡いでいくかということにフォーカスされた。

- ・今日は第5回の会議になるが、論点ややるべきことがかなり見えてきたと思っている。このまま第5回を実施し、今回の内容を含めて最終的にどういう形かでまとめてき、きちんとした戦略と、皆さんがよくおっしゃってる目に見える具体的なアクションに繋げていければなどと思っている。振り返りも含めて、以上です。

#### 【牧田座長】

- ・さっそく本日の検討テーマである「移住や店舗開業における課題や可能性」について、明石委員、加治委員からプレゼンをしていただく。プレゼンを受けての意見交換は、プレゼンが終了してから行う。

- ・まずは、明石委員、よろしくお願ひします。

#### (2) 基調報告

##### 【明石委員】講演資料に基づき説明

- ・今回は提言というよりは、自身の経験にもとづきテーマについて話をさせていただきたい。

- ・そのために、まず自己紹介から入らせていただく。京都で4年、富山で14年、東京で15年、再び富山で14年暮らしている。富山で育ち、東京で色々勉強して、また富山に戻ってきて、今では富山の生活の年数が長い。

- ・各地を振り返ると、富山市には京都から父の郷里に引っ越してきた。高校生になるにつれて、「富山は田舎でつまらないところだ」と思うようになり、都会に憧れて大学で上京した。大学進学後は勉強をせずに、アート活動のようなことをしていた。就職活動をせずに表現活動ばかりしていたので、縁故採用で地域作りの会社に入った。

- ・就職するまでは地域貢献のようなことに全く興味はなかったが、入社した会社は道の駅を発案した団体だった。

- ・当時、道の駅ではなく、市民運動として「まちの駅」を作るという話があった。今は新湊に川の駅があるが、駅の全国担当として、平成の大合併前だったが500市町村ぐらい訪れたと思う。週の半分ぐらいは地方に行く日々だった。都会に憧れて東京に進学したはずだったが、ほとんど東京にはおらず、1日にバスが1本しか通っていないようなところに行くような生活をしてきた。

- ・仕事では、流域や道路、沿線などで市町村の連携の可能性を探ったり、各地域のおもてなし人材の育成、自治体と連携できるようなツールや場を開発していた。

- ・それぞれの地域には本当に「住めば都」で、どの地域も素晴らしいオリジナルの資源があるのに、なぜかその魅力が響かないのか気になった。例えば富山県で言えば立山連峰しか打ち出さないような、もったいなさがあると思っていた。

・また、地域づくりにずっと関わりながら、活動のほとんどがボランティアでまかなわれていることに気づいた。まちづくりは食えないため、携わる方が高齢化していたり、活動が固定化したりしているところがあったいなと感じ、やはり別の稼ぎをしっかり持たなければいけないと思っていた。

・当時から「観光カリスマ」のような地域を牽引する素晴らしい方々もおり、魅力的な存在だとは思っていた。しかし、必ずしも彼らが地域に伴走し続けられるわけではないので、様々な人たちと協力したり、リレーをしていくような、サステナブルなまちづくりを考えた時に、もう私が東京でやることはないと思った。逆にコンサルとしてではなく、プレイヤーとしてやりたい、ツールや仕組みづくりはもうやめて、意思を貫いて何かをやり切るという意気込みで、富山に帰ってきた。

・1年目は「富山県定住コンシェルジュ」という、移住・定住希望者に向けたサポートや情報発信を行う機会をいただき、毎日、ブログで県内のさまざまな人々の日常を発信していた。特に人気が高かったのは、富山県の「お雑煮コレクション」という記事。富山県は日本の東西文化の結節点で、東と西の文化の混ざり合う場所だとよく言われており、お雑煮だけ見てもすごくたくさんの種類がある。そこで、県や市町村の方たちから、お正月に食べたお雑煮の写真と内容を集めて、ブログで紹介するという企画をした。

・約1年のコンシェルジュの活動を通じ、自分の実体験も交えながら提言冊子としてまとめた。自分がUターンしたのは30代。もう15年ほど前の話なので、提言内容についてもすでに各地域の施策でクリアできていることも多い。内容としては、不便さを魅力と捉えようとする視点、観光情報のような「ハレ」の日の情報ばかりで普段の「ケ」の情報の発信の少ないことへの違和感を書いた。今も不便さを魅力と捉えようとする視点はまだ少ないと感じているが、地域の普段の情報発信については、最近、丁寧な暮らしのような文脈でいろんな暮らしぶりが発信されているため、解決してきていると思う。

・提言ではUターンを検討する人びとの感じる不安についても挙げた。若くして都会に出ていくことと、ある程度仕事をしてまた地方に戻ってくることは、かかるエネルギーが全く違うと思う。そこで足踏みをしてしまう人がいるのではないかと。私も帰りたいたいと思いながら3~4年が経ってしまった。戻って大丈夫なんだろうか、話しが合う人はいるのか、働ける場所はあるのだろうかといった、不安を感じていた。そのような意味で、地域に対して活動する前に、東京にいながらにして関わられる、今で言うところの関係人口のようなあり方があれば、移住のきっかけになるのではないかと考え、私たちができることをいくつか提案をしたことがあった。

・その後、ワールドリー・デザインという会社を作った。「ワールドリー」とは「世間」という意味で、「世界」ではなく「世間」をデザインしたいということで会社の名前に取り入れた。今の仕事の領域としては、グラフィックと編集、出版、イベント企画運営、最近ではカフェ事業をしている。実績の多くは富山県や北陸系のガイド本、県内で小さな店舗のビジュアルなどいろいろなものを作らせていただいている。

・2011年に創業し、その多くがクライアントワークだが、自主事業にも力を入れている。ご近所の三河屋的デザイン事務所を目指して、地元の曳山の山町から依頼を受けてグッズの企画・制作から海産物を扱う事業者のパンフレット制作まで、幅広く手掛けている。また、リソグラフという孔版印刷機を導入し、掠れやズレや発色の良さを楽しめる印刷物などの制作も行っている。最近では、和綴製本でも自費出版本などを制作している。

・編集・出版に関しては、東京の出版社から全面委託され、企画から取材、デザインまで1冊まるごと作らせていただくこともある。また、射水商工会議所からは、牧田会

頭の肝いりで行っている市の歴史を紐解く歴史ヒストリアシリーズを毎年1冊程度発行しており、今年度は第10弾を製作中だ。

- ・イベントの企画・運営も手掛けており、県の委託事業で移住定住に関するツアーやイベントなどを請け負うこともある。

- ・オリジナルのグッズを制作しており、最近はや山にちなんで13の山町を擬“猫”化するグッズを制作した。

- ・毎年10日は「着物の日」と称し、地元の貸衣装店に着付けてもらって和装で仕事をしている。祭りの日は、女性は基本的にや山に「つながる」ことはできないが、それでもまた違った楽しみ方があったり、地元の気比住吉神社では1年に14回もの小さなお祭りが密かに行われていたりする。とにかく一つひとつの営みが地域の風景の一部だと考えており、その風景の中にいることが私の貢献だと思っている。

- ・自分の事務所には「ma.ba.lab. (まばらぼ)」という名前を付けている。「まばら」は漢字で「過疎」の「疎」という字で、人口密集地だった時は私たちが介入できる余地は何もなかったと思うが、人口が減ってきたからこそ、私たちは空き家に入ることができる。メインの通りのようなところに事務所を構えることができる。密な時は人と人との関係は、もしかしたらもっとあっさりしていたのかもしれないが、「まばら」だと人間関係のいろいろなものがちょっと丁寧に見えてくる良さもあるのかもしれない。故に「まばら」を楽しみたいと思い、「ma.ba.lab. (まばらぼ)」という名前を付けた。

- ・また、極短営業1時間で、路地に面した紙物ショップを運営している。リソグラフで作ったオリジナル冊子や、内川の町並みをモチーフにしたグッズなどを置いている。この1時間が肝だと考えている。この路地が1800年ぐらいの古地図の複製を見ると「庄助小路 (しょうすけしょうじ)」というところだとわかる。「私は庄助小路にいるんだ」といつも思っている。

- ・町並みの変化で言うと、海沿いにも家が連なっているエリアがあったが、区画整備で全て無くなってしまった。その後、海から直接自宅の玄関に雨が吹き込むようになり、台風がある度に水浸しになるようになってしまった。昔はなかったことだろうが、空き家をリノベーションして住むことはこのようなことが起きるといっても受け入れながら、住んでいる。

- ・最後に、「移住」がテーマということで、弊社で発行しているzineの中に「既視感まちづくり論」というコーナーでいくつか移住施策に対する疑問を書いたため、それを共有したい。

- ・例えば、私なりの移住直後の富山への異物反応について。都会から戻り、車が運転できないので、もうひたすら不便で、自分で移動ができない。公共交通もなく、自由に動けないことで羽をもがれた状態になり、自尊心も結構傷ついてしまった。この状態で地方にいるのは、かなり辛いという思いがあった。

- ・この感情と似ているかもしれないが、その地域にある暗黙知のような「あのひとあはちゃんと挨拶しといた方がよい」などといった地域独自の事情に全くアクセスできないため、疎外感が募った。

- ・また、当初は移住についてとてもキラキラしたイメージを抱いていたため、「好きなことができるぞ」と思っていたが違った。都会生活者は、不特定多数の人と過ごす環境に身を置くことが多いため、自分のプライバシーを侵されない方法や不快にさせずにテリトリーを守るマナーが自然に身についていると思う。しかし、田舎で暮らしていると、驚くほど他人との距離感の測り方が違うため、すごく傷つくこともあった。しかし、思い返してみれば、自分が都会生活や意識を引きずりすぎていたのだとも思う。諦めが段々となつてくると、ここの暮らしも楽しいと思えるようになってきた。

- ・「男尊女卑」「官尊民卑」はしばしば体験したこともある。

- ・もともと地域の人口も少なく、便利なものもなかったりするが、自分から取りに行けば繋がっていくし、自分で紡いでいく楽しさがある。
- ・異物反応は絶対にあるが、そのような中で自治体ができることがあるとすれば、「慣れてください」「頑張ってください」という風に精神的に応援してくれることが、私の意見としては一番良いと考えている。例えば、移住や起業のタイミングで資金を出すような施策は、あまり意味がないと思っている。実際に事業が始まり軌道に乗ってから数年後に苦しくなるのに、その時には何もない。どうせ自分の力で乗り越えねばならないのならば、最初から少額の資金程度なら出さない方がよいのと思う。
- ・以上、ありがとうございました。

#### 【牧田座長】

- ・明石委員ありがとうございました。続きまして、加治委員お願いします。

#### 【加治委員】講演資料に基づき説明

- ・株式会社Imizuttoと、並びに北陸ポートサービスの加治と申します。私からは実体験を元に、外の方の巻き込み方や、自分がこれまでやってきた経験、加えてマインド的なものを少しお話しさせていただきたい。地元でこういう人間がいるということでも可能性が1パーセント上がればいいなと思っている。
- ・まずは仕事について。私の実家の目の前の内川に泊まる「住吉丸」という船だが、元々加治家は、新湊から能登に物を運び、その帰りに丸太を運んで帰ってくるという仕事をやってた。その当時の写真を私が持っていたので紹介させていただく。このような背景もあり湾送関連の仕事や地域資源循環事業、バイマス発電事業、あと地域社会創生の4つの事業を柱として今仕事をやっている。大きな仕事のテーマ、スローガンとしては「『土づくり』で社会をより良くする」ということ。
- ・リサイクルした堆肥・土を作っているが、投影している写真の左上のところは立山町ヘルジアン・ウッドで、ここのハーブガーデン、レストランの農園、あと病院の園芸療法で使う土、あと射水市の食香バラにも使っていた。あとは自社の農業、土木資材として、道路を開いた後の法面の緑化材として、またエンターテインメントとして、元EXILEのUSAさんと枝豆を地元の小学生と一緒に栽培したということもある。農業以外でもハーブガーデンも自社でやったりをしている。
- ・私の会社はこのように土を作っている会社。土づくりということを核にいろんなことを事業展開しており、エネルギー事業、林業、農業、水産業、その土を使った飲食や福祉とも連携して事業を展開している。
- ・私は元々、埼玉の大学に行って、卒業し富山に帰ってきた。会社は、今58期で1967年から続いており、2012年に会社の代表になった。参考までに、元々港湾運送関連の仕事で、ロシアから入ってくる輸入木材の流通にも携わっていた。
- ・1988年に179万m<sup>3</sup>という量の輸入丸太が富山港、富山新港に入ってきていたが、2022年には実は0という実績で、会社もその流通量に合わせて仕事をしてると、会社はなくなっていった。それを機に、今度は国内材、山の木を運ぼうということで、新たに2013年にエネルギー事業にも参入した。
- ・また、射水市世界一挑戦塾ということで、地元の若者とも一緒に事業をやっていることとなり、ギネス世界記録にも挑戦したり、2019年には音楽フェスの開催もしている。2020年の4月に緊急事態宣言ということで、家で時間を過ごすために、ホームセ

ンターや園芸店に人が殺到しているところを間近に見て、自分たちがやってる土づくりでもっともっと社会のお役に立てるんだということを思い、今までやりたかったことや、やろうと思っていたことをなんでもかんでも挑戦しようということで、思い立ってやっている。

・2021年、地域創生事業部を立ち上げた。これが今Imizuttoという会社にもなっているが、そこで自分たちがやっている仕事を介して、この地元、射水市新湊エリアをもっともっと元気にしていこうということで、2021年には「8abliish TOYAMA」という飲食店を開業し、2022年には株式会社Imizuttoを設立した。

・自分のマインドということで、私について少し心を開くが、大学時代に「SHACHI」というインディーズバンドのツアースタッフをやっていた。約2年間、全国一緒にいるんなところに行き、ホテルに泊まることもなく、よく機材車に泊まっていた。

・実は、高木委員が何かの投稿かコメントで、学生時代に海外に行ったことが非常に良かったということをお話しされていた。私も国内だが、この時のマインドが今の自分のマインドに残っている。当時インディーズにどっぷり使ってたが、インディーズという言葉を見ると、「独立する」という意味、「大手に属さない独立性の高い状態」を示す言葉ということだった。そのため、私も今、自分の行動の根本的なところは、ものを生み出すとか、0から1を生み出すとか、そういうようなところに非常に興味関心を持ったりするマインドがあるというところをまずはご説明したい。

・そのため、常に成長したいという気持ちを持っており、自分事というよりは地域や社会になんとかしたいというところに非常にやりがいを感じる。

・実は、2012年に新湊から富山市へ引っ越している。要は出稼ぎに行ったということ。

・富山市に行き、いろんな人脈を広げながら、最終的には射水市に全部落とすところを持ってこうということで、2013年に射水市片口にバイオマス発電事業を立ち上げている。

・また、緊急事態宣言の時に、自分たちの持つる力をもっともっと生かして地元貢献しようということ、そういうことがきっかけで8abliishと、Apollo&Char Companyとの出会いがあって、2021年に地域創生事業を立ち上げた。

・8abliishという会社は、今、東京麻布台ヒルズにVEGANカフェをやっているが、元々南青山でVEGANのレストランをやっており、古くからやっている会社である。また、Apollo&Char Companyというのはデザインを主力とした会社。

・このような会社、このような方と知り合いになって、出会って、地域創生事業を立ち上げた。結果的に、8abliish TOYAMAは内川の空き家を改装して作っている。今年の3月にここに移転してきた。特殊なのは、ライムグリーン色の外壁。前に止まってる船の中の色と同じ色にしている。実はこの並びにスタジオピッピという写真館があり、この写真館の外壁も同じ色にして徐々にこのカラーで攻めていこうかなということも思っている。

・Apollo&Char Companyは、地域にライフデザインを提供、創出を目指しており、港町古新町に、空き家を改装して、東京からこの射水市に拠点を移して、新たなデザイン事務所を10月にオープンしている。地元、富山県ではなかなか触れることがない家具やデザインをフルに活かして、世界に通用するようなデザインを発信している。

外観はこのような感じで、空き家3件、空き地1件の4件分でこの形になっている。

・可能性について。なぜ東京青山から富山に拠点が移ってきたか。食が非常に魅力的であるということがきっかけだったが、結局の決め手はやはり人だった。この地域柄、この地域の人、まさに祭りなどの歴史的な背景、あと文化、風土、内川の豊かさみたいなものも含めた人の良さが決め手だという風に聞いている。

・私は、逆に、外の方の力をもっともっと生かして、中に秘めたものを最大限に発揮することが必要だということ、それが結果的には可能性ということになるが、お互いに足りないところを補うことがあって拠点を移すことにつながったのではないかと思っている。

・自分的には、何事も今起きてることは過去の産物で、過去の延長線ではいろんなことは解決できないと思っている。物事をアップデートするっていうこともあるが、やはり乗り換えることや、新たなものを作り上げていくことも非常に重要ではないかと考えている。まずは必要なことは自分で取りに行くという行動、あとは足りないところを埋める。

・必要なものは自分たちで埋めていくという行動が大事だと感じる。それをやるために何が重要かという、信頼関係。内に秘めた力と外に溢れる力を掛け算したところ、イノベーションの可能性や、自分が思った時にすぐ行動するというスピードが、結果的には結果を出す1つの要因ではないかと思う。あとは やればいいということではなく、いかに美しくというか、人に見えるようにするというデザイン性も大事だと思う。結果的に街はそういう人で磨かれたことを反映するところではないかと思う。

・最後に、行政の方に対しての少しの提案だが、先日のカンファレンスも、今回の会議もそうだが、プレイヤーなる人たちを集めていろんな話を議論する場をもっともっと必要ではないかなという風に思う。そこに対していろんなハードルはあると思うが、いかにオープンでやるかが大事。その場所に参画しないと置いてかれるような、もっともっとオープンな場でいろんな話をしていくことも大事だと思う。

・あと使えるものはなんでも使うべきだと思っているが、補助金の連携もホームページで公開されてるだけでは、必要なところに届いてないと思う。そのため、オープンな場で、行政のサポートのようなメニューも合わせていくこと。ただ、民間に委ねるところも必要かと思うので、中と外の調和をもっともっとやっていただければいいかなと思う。そこで出てきたアイデアや思いは、その可能性を信じる、いろんなハードルがあったとしても突き進むということが大事ではないかと思う。

・そもそも私がなぜこの地域の地域づくりをやっているか。好きとか嫌いとかではなく、経営者として、人口減、働き手の不足っていうのは中小企業だけではなく、大企業にも、これからさらに大きな問題へと発展していくと思う。むしろ、いろんなところで女性活躍、共働きという話もあるが、そういう地域が抱える経済的な問題も1つ考えながらやっていくということが必要ではないかなと思う。

・だから、住む人を増やすための内川や、観光として人に発信すべきものは、地域に住む人たちが得るべき特権だと思うので、特権があるということを活かして、人が住むところになっていきたいと思う。あとは、店を開業するだけではなく、近隣の企業も人不足なので、旦那さんが働きに出て奥さんが開業するとか。共働き、女性活躍というのはこれから必要になってくるから、ただ住むだけではなく、「働き、住みた



い」というところを、商工会議所と一緒に連携しながら、この日本一を発信していくことが必要ではないかなというようにも思う。私からのプレゼンは以上です。ありがとうございました。

### (3) 意見交換

#### 【牧田座長】

ありがとうございました。それでは、前回と同じようにお二方のプレゼンに対するコメントなどを一人ずついただきたい。

#### 【青井委員】

・お二方ありがとうございました。お二方は、愛に満ち溢れてる感じがして、ご自身が進んで、ご自身が作ってる町を垣間見させていただいてありがたいなという風に思う。

・今回、移住やEターン、Jターン等がテーマだと思う。毎回申し上げるが、まだまだ市や行政、民間も含めて、魅力を10を10で伝えきれてないんだろうなと思っている。多分この日本という国はのどの市を取っても切り取っても間違いなく魅力的で、水があって、太陽が出て、お魚が捕れたり、山の幸が取れたりとかとかがあり、みんながみんな自分たちのまちめっちゃくちゃいいよねと思っていると思う。ただ、その魅力を10を10で伝えきれてない。

・人口減少などの話もあるため、日本国内で言えば、パイの奪い合いになるだろうと思っている。東京から連れてくるのも良いし、大阪から連れてくるのも良いが、ただ、それは根本的な解決にはなっていないので、海外の人が入ってくることをもっともっと考えていきたい。この魅力を教えたくないという思いもあるが。

・とはいえ、日本は人口減と間違いなく向き合わなきゃいけないと思うので、どういう範囲で考えればいいのかわからないが、射水市なのか、富山県なのか、日本国なのかわかりませんが、海外のフィリピンやベトナムから積極的に来て、働いて、住んでくれることを考えていくと、未来感が出るなと思いついていました。

#### 【牧田座長】

・青井委員が発言していたような海外から人を引っ張ってくる、呼んでくるということに対して、感じることはありますか。

#### 【加治委員】

・あまりない。魅力を感じてもらって、その働き先として選んでいただいて全然来ることに限っては良いのではないかなと思う。

・あとは受け皿がどうかということだけ。それをやっぱ拒む人もいるので、それをどう調和していくかってこと。逆に、自分たちが外国に行った時にはどういう対応が喜ばれるのかということも考えながら話していくことが良いと思う。

#### 【牧田座長】

擬似外国人的な移住をした明石委員はいかがですか。

#### 【明石委員】

・県内でも射水市はもともと外国の方が多い。イミズスタンなど。

・うちの会社で実は射水市の指定ゴミ袋のデザインもさせてもらってるいるが、何ヶ国語も書いてある。富山市の人とか高岡とかの人たちを見ると、「なんでこんなに多

言語が書いてあるの」と言っていて、射水市のゴミの担当の方が「ここまでの多言語なのはうちだけ」と言っていた。

**【青井委員】**

・その切り口は良い。未来感が出てきた。  
・生活に密着しているところに多言語があるというのは結構モデルとなると思う。東京でも多分英語だけだと思う。

**【福田委員】**

・お二人ともどうもありがとうございました。印象的だったのは、お二人とも必要なものは自分で取りに行くとおっしゃっていたが、特に、明石さんは、移住されて初め馴染んでいくまでの中で、キーになるような人はいたか。

**【明石委員】**

・移住のストーリーとかでよく「あの人が」とかいると思うが、あまりいない。ただ、1つあげるとすれば、この射水市に移住してきた時に、奈呉町の自治会長さんに非常に良くしていただいて、「デザイナーなんだから、今度神社の幕を新調したいから、デザインをしてほしい」など言ってくださったのは大きいと思う。

**【福田委員】**

・今の話を伺っていても、お二人とも才能がすごすぎる。なんでもやれてしまうお二方だと思うが、もしかしたら普通の方は移住にしても、新しいお仕事をこちらでされるにしても誰かが背中を押してあげるといふか、きっかけになるような場があるのか、人がいるのか、そういうことがあることで踏み出しやすいんだろうと思う。  
・実際地域におられる皆さんは年齢の幅もあるし、経験の違いもそれぞれの領域である。なので、皆さんに何か相談ができるとか、そういう体制になってるとすごくハードルが下がると思う。もしかしたら今後行政の皆さんとうまくそういう体制が作れると、すんなりこちらに来るきっかけを得られたり、新しいことにチャレンジできるきっかけを得られたりっていう風になるのかなと思いつつ聞いていた。

**【牧田座長】**

・今の話は加治さんのプレゼンの最後の方に言っていた「オープンな場をつなげる場があった方がいい」という部分に通じていると思う。

**【五十嵐委員】**

・発表ありがとうございました。私も今年の10月1日に空き家を使ってお店をオープンさせた。実はこのお二方は私が動くきっかけにもなってる。この間の「しあわせる。富山」の際にもお話をさせていただいたが、1番最初に新湊の内川沿いに六角堂さんというカフェができた時は、まだ私たちは小学生か中学生になるぐらいだった。その時は何気なく、地元の私たちからしたら「内川沿いにお店ができたな」という印象で、かつ「地元の人ではなく外の人がやってるな」というイメージだった。そこから少しずつ増えてきたが、ただそれも外の人たちが頑張っていて、内川がいいなと盛上げてくるような感じの印象があった  
・そのため、その時にこうしたいなとかはなかったが、そのお店が増えてきたりすると、私たちが見てきた町が少しずつ変わっていく。そして実際お店とかに入った時に、空き家がこれぐらい変わるのだという衝撃を少しずつ感じていく中で、私たちの町に空き家を所有してるのは地元の僕たち自分たちだとだと思つたので、地元の人たち

はどうしたらいいんだろうかなと、少しずつ興味を持ち始めた。

・僕はお祭り好きだったため、地域を盛り上げながら何かできたらいいなと思ってる中で、加治委員の実は射水市世界一挑戦塾に、当時ます寿司を並べらるって企画があり、そこに初めて行った。すごい面白いなと思った。いろんなことができる幅もある。僕らは祭りとかもそうだが、地元のお兄ちゃんたちがなんかかっこよく祭りしてるの見て、祭りに入って、この地域に残って、「ああいうお兄ちゃんたちになりたいな」と思っていた。そういう風に僕らも面白いことしてみたいというのが、やっぱり地域に今残って何かしたいというきっかけになっている。

・そのように、自分が少しずつやりたいなという気持ちが出てきた時に、どうやって空き家をあれだけ綺麗にしたのかとか、どういう感じで内川でビジネスをしていくのかなというのはすごく気にはなっていたが、なかなかその外の人というイメージと、地元の人たちの、若干僕らからしたら遠い存在というのがある。

・僕のお店はDIYでやったが、やっぱり地元の若い子たちでも、やりたい子が結構多く、携わってくれた人は20人ぐらいいる。自分の町だから自分たちでなんかしたいなと思う子たちはいるが、ただ、どうしていいかわからないとか、気になるけど聞けないなというのがあったので、僕が今こうやって地元の若い子の代表ではないが、こういう形で新しい内川の周辺で事業をするにあたって、地元の人や、さっきも言ったオープン場のように、いろんな人たちがいい意味でぐちゃぐちゃにかき混ぜられて、いろんな議論をする場があるのはすごくいいことかなと思う。お互いに地元のことも教えてあげ、僕らも気になってることどんどん聞けるような形で行政も民間も一緒になっていけたらいいのかなとは思う。

#### 【牧田座長】

・ありがとうございます。今の「何かをやりたい、地元でやりたい。でも、移住して来られる方との違いを感じてしまい、うまく踏み出せない」という点に関してアドバイスありますか。そういう場を作るとというのがまず1番なんだろうが、その辺のノウハウ等々あれば明石委員お願いします。

#### 【明石委員】

・やり方は人や場所によるので、方法論は多分ないと思う。田舎はいい人に会えばそこからどんどん繋がっていくところもあるが、そのままにしていると自家中毒みたいになる。だんだん自分の手足を食べているタコみたいに陥りがち。なぜかというのと、やっぱり居心地が良く、例えば同じ人とも何回も別の会で会うことが多い。何をやっているか、今どういう課題があるのかということをしつ飛ばして、存在自体を認めてしまうため、居心地が良くなってしまふ。結果的に居心地が良いところにいるままで関係性が限られてしまふ。そうならないために、先ほど加治委員も言われたが、自分よりも若いとか、経験が浅い人に対しても、オープンマインドであり続けられないと、田舎は本当に閉鎖的になっていくと思う。

#### 【牧田座長】

・一言でいうと、コツは突破すること。突破というか、外に積極的に働きかけていく姿勢。では、木村委員いかがでしょうか。

#### 【木村委員】

・ここに生まれて、少し外出て戻ってきたという立場で話を聞いていると、加治委員や明石委員の話に共感した。

・前回カンファレンスの時に見せてもらった内川の住民の逆三角形ピラミッド、1番の

ボリュームゾーンが85歳女性というのが本当に衝撃すぎた。本当すごい。1番上の女性が、どの世代の人口比よりも圧倒的に多い場所は、どんな場所なんだろうと思いつつながら、僕はここで活動してる分にはそこまで違和感を感じないが、確かに日に日に小学生は中学生が川の駅や船で遊んでることが減ってきたというのは実感しながら見ていた。

・逆に言うと、あと10年、20年したら、この内川の周辺に住んでいる人は、全く減り、空いたところに本当にこの地域がいいなと思ってチョイスして住む人が増える余地があると思ったりもした。このような話は全国、世界で空き家対策の時にするが、仮に世界中の人に、地方の魅力を届けられたら、ここがいいと思う人が結構住んでくれる地域だとは思いますが、そんな当然都合のいいことあるわけでもない。

・僕が帰ってきた時、内川周辺は間口が狭く不便だと思った。友達の家遊びに行ったら廊下がない。水回り等は今直せばなんかなと思うが、こんなところに若い子が子供を産んで、高校生とかの子供を育てて、自分のプライバシーも守れないようなところに家を作れるのかと帰ってきた時は思った。

・ただ、うちに小5の娘がいるが、小学校ぐらいは自分の部屋はいらなと思う。そのため、小学生ぐらいまでは家族でぎゅっと縮まった中で子育てしたり生活したいというのはあると思う。

・仕事自体はありがたいことにどこでも人手不足で、仕事がないわけではないので、そういうところをターゲットに、初期の子育て、結婚したらしばらく射水市に住んでみませんかみたいな打ち出し方もあるんじゃないかと思った。

・建築のことはわからないので、どれぐらいの金額で水回りが綺麗になるかはわからないが、10年住んで次の人に譲るみたいなスタイルでもいいと思った。そういう人を子供を持った受け入れるだけの素地は、内川にはあると思う。その代わり、船は危ないから近づいたらいけないよというのは必ず言う必要はあると思う。

#### 【牧田座長】

・それは事業者のプレゼンを聞いて生活者の視点を持っているということ。木村委員が言ったような生活者としての視点に関してはどうか。

#### 【明石委員】

・やはり、この町にずっと憧れてる。「私、内川におる」とか毎日思う。漁師さんや加治委員みたいに、昔からここで事業をやっている人が、とても羨ましく、素敵だと思う。自分はそこがない分、すごく憧れだし、憧れているから好きでいられるような気がする。

#### 【永谷委員】

・こんな方はなかなかいない。内川に来てただけで非常に良かったと思うべき。明石委員も加治委員もそうだが、お二人ともデザインというところを持っており、街に愛とデザインを入れていくことはとても重要だと感じる。色んな地域を見てるのでわかるが、この熱量、スピード感で活動してる人、きちんと発言して変えていける人はなかなかいない。

・現在「#みらいシテン射水」で空き家の情報バンクやサポートが始まっていると思うが、その活用はどうなっているか。

#### 【佐野課長】

・10月1日に、空き家利活用と移住の総合相談窓口の仕事を「とやまのめ」という富山県にある若者たちが作った一般社団法人に委託して、窓口を内川沿いの番屋カフェ

に設置し、業務が始まった。

・彼らは若い集団でSNSなどの情報発信がとても上手かつ、若者たちの様々なコミュニティを持つため、そのコミュニティを活用しながら、特に若者の移住を進め、それに伴って空き家利活用に繋げていく流れを生み出そうとしているところ。

#### 【永谷委員】

・高木委員から内川の良さや思い聞き、内川未来戦略会議やお祭りでも関わらせていただき、かなり詳しくなり、内川未来戦略会議に対してもかなり愛着が湧いている。

・ただ、ずっと同じ話してるが、調べてもいつも「橋を見ましょう」「内川綺麗です」「着物で歩きましょう」「カフェがあります」という4つだけ。もう少しここに住む人たちや、情景、暮らしや文化を伝えてもいいと思う。

・移住に関しては、まさに明石委員や加治委員の「こんなに素晴らしい場所だ」ということをきちんと発信する場所を持った方が良い。他の地域の移住、定住のサイトを2つぐらいの地域で作っているが、圧倒的に「移住してよかったです」というインタビューコメントがコンバージョンしている。

・そのため、ここまで話のようにちょっと話したら泣いちゃうぐらい「愛しすぎて、提言もない」と言ってくれるような人たちの話を伝えていくことで、科学反応が起きていくのではないかと思う。ちゃんと伝えていくこと、まずそれだけでもいいのではないかと思う。

・ただ、移住するとなった際に、近くに空いてるお店がない、観光のお店が閉まっているようなコメントが多々ある。

・どの地域でも必ず最低限やっている2分の1補助という割とベーシックな対策の話はあると思うが、課題解決に対して移住して空き家を活用してくれたら、例えば2分の1補助ではなく100パーセントの補助にする、2分の1補助だが200万出すなども案としてあると思う。そのような形で地域が移住や定住、観光、インフラなどの受け皿になっていくところへの融合やマッチングにコンバージョン上げていくやり方はあるのかなと思った。

・明石委員、加治委員のような方々がいて、もう十分というか、これ自体が手に入らないことだと思う。そのため、あとはそれをきちんと伝えていくことや、支援は必ず必要かなと思うので、住む場合に足りない機能をサポートするのが大事だと思う。

・そう思ってる方々いっぱいいると思うので、この活動など発信すべきものを射水市のサイトに載せるべきだと思う。発信をするだけでもっとたくさんの人たちの問い合わせが増えたり、住みたいという気持ちが増えると思うし、それらをしていくことでお店が増えると思う。

・この議論はずっとしてると思うが、まちづくり協議会のようなものがないと、結局、誰がどう仕切っていくの、どうやって決めていくの、何が優先順位なのっていうのが固まっていけない。まちに必要な機能や、まちを愛する人たちがきちんと連携してまちづくり協議会のような組織を作っていきたい。

・景観条例ではなく、情景条例というのを日本で初めて作っていけば良いと思う。

#### 【高木委員】

・今日はお二人とも発表ありがとうございました。すごく等身大で経験されたことを聞いて、改めて聞いて思いを固める部分があった。議論としては今まで出てた話の通りだなと思っている。

・私の役割としては、富山出身だが、今は離れてるからこそしがらみが一切ないというところがあるので、あえて問題提起をさせてもらおうと、射水市に合併して20年だと思うが、五十嵐くんが「しあわせる。富山」でも20年前ぐらいまでは結構人がいて元

気だったが、徐々に人が減って暗くなっていったと言っていた。明石委員が移住されたのは多分12年前ぐらいで、少しずつ色々な活動を進めている。

- ・ただ、このプロセスは実質的にほぼ民の力に成立していて、行政としては多少、川並みを綺麗にするなどハードのなにかしらの支援はしてるが、実質的にまちを起こすことやまちづくりをしていくことに対して、行政が機能を果たせてないのかなと思う。

- ・今回、まちづくり観光課を新湊側に作ったと思うが、多分、行政は何していいかわけ分からないと思う。それは射水郡という人が増える新興住宅地側において、なんとなく「道路綺麗にすればいいよね」とか、「とりあえずベンチ作っとけばいいよね」みたいな形で、見当外れなことばかりにお金使ってる。

- ・そのため、結局まだ元気だった昭和時代に作った橋を「これがいいんでしょう」という感じで終わっている。時間が止まっているんだと思う。

- ・もしそのような何をやっていいかわからない状況なのであれば、実際に実行しているプレイヤーを徹底的に支援すべきだと思う。行政の支援はそういうものだと思う。プレイヤーは、何をやるべきかをわかってる。

- ・しかし、それがえこひいきや、こっちを立てるとあっちに対して良くないということがあったとしても、そこをむしろ守ることやっていった方がいい。

- ・移住する際に、「辛い気持ちはあるが、別に行政に期待することないですよ」と言われるのは、ほぼ行政の敗北だと思っている。何も支援がない、勝手にやってくれしか言われぬ、邪魔しないでとしか言われてないという状況があるとしたら、それはやはり問題であり、その問題があることをまず前提にした方が良く思う。

- ・今回の会議では、なんとなくありがたい話を聞いたような感じの雰囲気になっているが、行政が機能不全してるということを大前提に置いた方がいい。

- ・ただ、そのようなプレイヤーがせっかく居て、五十嵐くんなど、この状況においてもある程度自分でリスクを取ったりしてやっている世代も生まれてきたりとか、祭りなども続いたりしているなどの状況の中で、どういう支援や枠組みを作れるか、行政だからできるという条例とかもあるかもしれないなど、何すべきかを本気で考えないと、合併してよかったなどはならないと思う。関係人口の入口を作っていくということや、この地域の文化や風土を守っていけないのかなと思う。

#### 【夏野市長】

- ・大変厳しいというか、率直なご意見をいただいたように感じた。

- ・行政側でこのような発言をすると、自分たちの様々な活動や存在意義を否定するかもしれないが、先ほど明石委員や、加治委員からも話があったように、これまでの行政の制度は基本申請主義で、発信をしてると言いながらも「取りに来てください」、「声をあげてくれると何かできます」というような仕組みになっていることは感じている。ただ、行政は万能かというところと全く万能ではなく、できないことも多々ある。

- ・先ほど高木委員が言われた通り、地域の中で本当にこうしてほしいとか、こういうことを求めているなどを現場の担当は感じてると思うが、そのような課題を本当は制度にして様々な支援をしていける形になればいいと思っている。

- ・ただ、そこには様々なフィルターや、考え方が入ってくる。先ほど高木委員が言っていたように、「あっちばかりに力が入って、こっちに力入ってないんじゃないか」など、そのようなバランスを考えてみたり。

- ・わかりやすく言うと、行政は結局できることもあればできないこともある中で、地域の課題は多岐にわたっていたり、地域ごとに非常に特殊なものもあつたりする。本来であればそのようなところに手を伸ばしていかなければいけないが、なかなかできないというもどかしさも感じているのは実際にある。

- ・そのような状況の中で、行政だけではなく様々な民間の皆さんと取り組みをしていく中で、先ほどまちづくり協議会という話があったが、行政だと感じきれない課題があったり、なかなかそこに突っ込めない取り組みもあったりというところを、民間の皆さんと連携をしながら、しっかり取り組んでいけるような仕組み、体制作りをこれからしっかり目指していきたいというのは、正直私が今感じている課題ではある。
- ・今回、内川の未来戦略会議で色んなご意見もいただきながら、最終的に取りまとめしていく上においても、行政でやってくれと言われてもなかなかできないこともあるかもしれない。
- ・そのため、お互い協力してやっていけるような、組織、パートナーの必要性はすごく感じている。これは内川だけではなく色んな自治体でも必要だろうと思う。既存の商工会議所や商工会もあるが、そこはそこで経済の役割というのはあると思う。
- ・総合的なまちづくりや市民の生活の中で、うまくニーズを汲み取りながら取り組んでいけるようにしていきたいというのは、私自身も強く感じている。
- ・今はそのような問題を内部でも共有しながら今後どうしていくかという段階にある。

#### 【牧田座長】

- ・要するに、行政は金を惜しんでるわけではなく、補助金などを使う場合はえこひいきなどとか言われるのは困るため、その間に1回クッションをおけばどうかという提案だという風に受け取った。高木委員いかがですか。

#### 【高木委員】

- ・一方的な問題提起にちゃんと答えてくださってありがとうございます。
- ・多分行政側や議会も含めて正直難しいとは思っている。難しい中で、小さな政府にするというわけではないが、もっと民の力を活かしたり、外の知見を活かしたりしなければいけない。
- ・もし特定の人などがやりづらいのであれば、まちづくり協議会やこの会議体もそうかもしれないが、考え方や権限みたいなものを達成していけるような組織を作り、その組織では柔軟に方針を作っていく等が良いと思う。
- ・また、発信なども行政で行うには難しいと思うので、やっぱり発信して下さっているプレイヤーを支援したり応援していく枠組みにしていく等、そのような発想を徐々に渡していくことも大事なのかなというのは思っている。

#### 【牧田座長】

- ・今回のまとめに入るが、最後の市長と高木委員のやり取りに尽きるような気がしている。移住してやりたいことに対してサポートできるかということが非常に大きなテーマだと思う。
- ・加治委員の「人は人で磨かれ、街は住む人を移す」という言葉にはすごく感動した。

#### 【牧田座長】

- ・私はこの会議ですずっと貫いているテーマは普段使いだと思っている。だから、いかに普段の姿を良くしていくか、それがイコール情景になっていくわけで、その情景を守る、作っていくための条例を作っていくような動きにもなるのかもしれない。今日は第5回目で、最初の議論と比べると柔らかくなったため、議論としては良いと感じた。前回から大変良い雰囲気になってきている。
- ・次の回は6回目。今日でプレゼンが全部終わったため、6回目は皆さん総掛かりでまとめていくフェーズに入っていくんだと思っている。そこに向けて、高木副座長からどうしても提案をしたいということがあるのでお願いいたします。

**【高木委員】**

- ・今回はすごく良い議論できてきてるなと思っており、本当に皆さんのおかげだと思っています。ありがとうございます。
- ・最後、ここまでいろんな議論があったものを取りまとめていく上で、内川の価値とは何かというのを、綺麗に言語化しきれないかもしれないがこういうことだよねと言っておく必要はあると思う。また、戦略としてまとめ、最後は具体的なアクションで、市としてもコミットしてもらいたい。
- ・ここにいるメンバーも含めて、どういう風に関わっていけるかということを中心としていく中で、個別ワークをするというよりも、せつかく会議体、1個のチームとしてやってるので、一気に集中してできたらなと思っている。
- ・そこで提案だが、1月に合宿をやれないかなと思っている。どこかのホテルに缶詰めにするのは、全然インスパイアリングじゃない。
- ・朝市をやれたらいいのではないかという意見は前回か前々回とかで出てたと思う。最近朝市を実施してうまくやれてるという例として、永谷委員から兵庫県の加古川が面白いと聞いた。
- ・そのため、素案などは作っていくが、兵庫県の加古川で、朝市見たり、経験しながら、この内川未来戦略について皆さんで缶詰になって集中して固めていく合宿をした上、その後はある意味公式ではない会議かもしれないが、最終の取りまとめをドキュメントに落とし込み、この未来戦略会議をまとめられたらと思っていますが、皆さんいかがでしょうか。合宿のスケジュールは、年明けの1月などをイメージしております。

**【牧田座長】**

- ・ここにいる人は、全員賛成ですね。
- ・合宿は市長にも出てもらえばいいのではないか。

**【高木委員】**

- ・そうですね。まずは時間を一緒に共有して、きちんとコミットしてもらうことが大事なので、お願いします。

**【牧田座長】**

- ・高木委員の提案は受け入れられましたので、実施に向けて準備をお願いします。

**【高木委員】**

- ・わかりました。永谷委員にもご協力いただきながら進めますので、よろしくお願いします。

**3 閉会**

**【事務局】**

- ・皆様、長時間にわたり、誠にありがとうございました。
- ・スケジュールでは、次回を最終会議として、2月に第6回会議を予定している。日程につきましては、至急に調整させていただきます。今回、この会によりご提案いただきました合宿につきましても、調整した上でご案内させていただきます。

**【永谷委員】**

- ・少しお時間よろしいでしょうか。先ほど高木委員が話していた兵庫県加古川の件ですが、加古川のムサシさんという、ノコギリやチェーンソーなどのDIYのアイテムを売



っている会社で、小売の会社が町を盛り上げたいと始めた朝市が今盛り上がっており、何千人の人が訪れている。遊休施設や学校を使って、カフェや交流の場を作って、町がアップデートしてるという事例。

- ・NewsPicksの「POTLUCK AWARD」では地域に貢献している事業を募集し、150近い募集がある中で、優秀賞として選ばれているところなので、ここを見に行くと面白いと思っている。

- ・本当に何にもない場所だが、朝市には日曜になる多くの人が集まってくる。それを小売店がやってるというのがすごい。ただ、デザインは入っている。ムサシさんで売ってる、ノコギリやチェーンソーは可愛い。

- ・あと、移住のサイトをたくさん見ているんですが、移住を考える時に何を見るかというと、100パーセント近く自治体のサイトだった。加治委員や明石委員だけではなく、移住者、先輩たちなど、どのような人がどのようにしてるかという、こんな人たちがいるのかということも参考値にしている。栃木県のサイトなどを参考にしている。

#### 【高木委員】

- ・わかりやすいですね。
- ・特別なことではなく、可視化するところから始めるべきだと思う。

#### 【事務局】

- ・以上をもちまして、「令和6年度第5回射水市内川未来戦略会議」を閉会させていただきます。本日は、どうもありがとうございました。